

大阪市で落花生収穫体験

体験農園 あじわいが協力

11月13日、大阪市住吉区内の農地で、消費者を対象とした落花生の収穫体験イベントが行われた。

イベントは、来春に大阪市中央区の中船場地域で辰野株式会社（仮称）検討委員会が主催したもので、事前公募により親子連れなど計20組が参加した。

イベント当日、参加者への指導を行ったのは、体験農園あじわいの上田智史代表（26）。



老若男女さまざまな参加者が落花生を収穫した

約10アールの農地で貸農園や稲作、農業体験を中心とした取り組みを展開している。

上田代表が管理栄養士養成学校に通っていた頃、農業体験で獲れたての美味しさを知った友人たちが、それまで苦手だった野菜を好きになったという体験を目の当たりにしたことが取り組みの原点になっている。

イベントでは、収穫期を迎えた落花生を参加者たちが一斉に収穫。「落花生は土の中に莢が

つくことを知らなかった」「畑に農産物が出来ているところを子どもに見せられて良かった」など様々な声があがった。

その後は収穫した落花生を上田代表が茹で、参加者が実食。獲れたてならではの甘みに参加

人づくりが大切

雇用に関する研修会

府みどり公社と農業会議は10月28日、南河内府民センターで雇用に関する研修会を共催し、これから本格的に雇用を考えている府内の7農業経営体の代表等が参加した。

者から驚きの声があがった。今回の収穫体験について、辰野株式会社（仮称）の岡本浩典次長は、「畑で実際に体験することで、参加者だけでなく、主催側も農園開設にあたっての運営の参考になり良かった」と振り返り、

上田代表は、「農業に対して潜在的な関心を持っている人は多いと思う。参加者の方々に実際にやってみると農業は楽しいということを知ってもらえたら嬉しい」と話す。

講師として特定社会保険労務士の橋本将詞氏が「長く働いてもらう農業経営の作り方」と題して講演。これからの農業を「人づくり」の観点から、具体例を交えて農業における労務管理の基本や、経営者の心構え等について説明した。

また、農業会議からは、雇用際に活用できる国の助成事業「雇用就農資金」の内容等について紹介した。

今回の研修会では、参加者の大半が正社員雇用は初めてといったこともあり、研修終了後も残って橋本氏に熱心に個別相談する姿が見られた。（光崎）

大阪産(もん)の魅力を堪能 おおさかもん祭り ~Road to EXPO 2025~



当日は大人から子供まで大勢の来場者でにぎわった

11月9〜10日、大阪市・天王寺公園エントランスエリア「てんしば」で「おおさかもん祭り ~Road to EXPO 2025~」が開催され、「大阪産(もん)」の魅力が体験できる約60ブースが展開。泉州きくな（しゅんぎく）や西成産しいた

けなどの農林水産物と、加工品の販売・試食が行われた。会場内のステーションでは、「大阪産(もん)名品」に新しく認証された計18商品のお披露目会や、大阪府が5年連続で出荷量日本一のきくなのPRなど多数のイベントも実施。

府環境農林水産部流通対策室ブランド戦略推進課の池田主査は、「大阪産(もん)や大阪産(もん)名品のPR、大阪・関西万博の機運醸成を図る目的で開催した。地産地消は輸送に係るCO₂排出量の削減にもつながるため、環境にやさしい『大阪産(もん)』を味わっていただきたい」とアピールした。（林佑）

州・JAいずみの・JA堺市が共同で実施する「泉州きくなプロジェクト」の一環として、連携している府泉州農と緑の総合事務所農の普及課がブースを出展。泉州きくなを使用した大福やサラダの試食などを実施した。